

応急手当について

※これらの応急手当は一例になります。
症状によっては、別の方法が良い場合がありますので注意しましょう。

❖ 止 血

人間の全血液量は体重の7～8%で、体内の3分の1の血液が失われると生命の危険があります。真っ赤な血が噴出するような動脈性出血は、すぐに止血が必要です。

直接圧迫法による止血

出血部位を確認し、きれいなガーゼやハンカチ、タオルなどを重ねて、傷口に当て、その上を手で圧迫します。

大きな血管からの出血の場合で、片手で圧迫しても止血しないときは、両手で体重を乗せながら圧迫止血をします。



Point 手当てのポイント

- ・止血の手当てを行う時は、感染防止のため血液に直接触れないように、できるだけビニール製やゴム製の手袋またはビニール袋を使用します。
- ・出血を止めるために手足を細いひもなどで縛ることは、神経や筋肉を損傷するおそれがあるので行いません。
- ・ガーゼなどが血液で濡れてくるのは、出血部位と圧迫位置がずれているか、または、圧迫する力が足りないためです。



❖ 骨折・捻挫の応急手当

そえ木で固定する

骨が折れて痛みがある所をむやみに動かしてはいけません。折れた骨を支えるそえ木になるものを用意し、折れた骨の両側の関節とそえ木を布などで結び、固定します。

そえ木は、骨折部の上下の関節が固定できる長さのものを使用します。

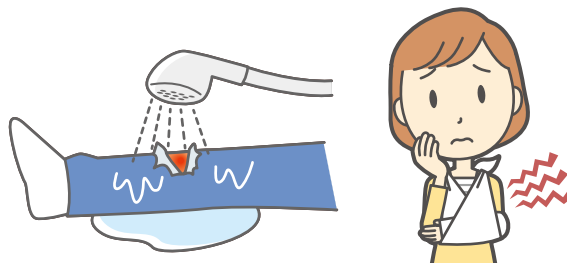
固定するときは、傷病者に知らせてから実施し、顔色や表情を見ながら固定します。



三角巾を使う

三角巾は身体のどこでも使え、スカーフや風呂敷、大判ハンカチでも代用可能です。

傷口の汚れは水で流し、滅菌ガーゼなどを当てて覆います。結び目が傷口の真上にこないようにします。



❖ やけどの応急手当

水で冷やす

やけどは、すぐに水で冷やすことが大切です。やけどを冷やすと、痛みが軽くなるだけでなく、やけどが悪化することを防ぐことができます。

断水時は水道を使うことができないので、ペットボトルの水などを使って処置します。水道が使える場合は、傷口を流水で15～20分ほど流し続けます。



Point 手当てのポイント

- ・靴下など衣類を着ている場合は、衣類ごと冷やします。
- ・氷やアイスパックを使って冷やすと、冷えすぎてしまい、かえって悪化することがあるので注意します。
- ・広い範囲にやけどをした場合は、やけどの部分だけでなく、身体全体が冷えてしまう可能性があるため冷却は10分以内にとどめます。